

身近にある温暖化の影響-2

2025年函館市内でおきたナラ枯れについて

山上 勝治（5期）

はじめに

今年2025（令和7）年9月、函館市内の見晴公園（香雪園）で「ナラ枯れ」が発生した事をテレビのニュースで知った。市内の街路樹や公園の樹木70本に被害が確認された。今季はさらに北上し八雲町にまで広がったようだ。最近のネットやテレビのニュースはAIの活用が進み、情報が速く、昆虫の生態やメカニズム、発生状況など専門的な話まで瞬時に提供されるのには驚く。2020（令和2）年12月、当時の北海道新聞の記事によると、本州の青森県でナラ枯れ被害が急増したため、青森県に近い渡島管内の松前町、福島町、知内町でフェロモン剤を入れた捕獲器を設置して調査をしたところ雄2匹、雌3匹の計5匹を道内で初めて捕獲した。この時点では侵入時期や侵入経路は不明で、周辺でのナラ枯れの被害は確認されていなかった、とある。いずれも山林での調査だと思うが、ここ5年間で急増し北上を続けている。今季の被害本数は、2025年10月時点で1637本、前年調査の213本の7.7倍に及んでいる。北海道にナラ枯れ被害をもたらしているカシノナガキクイムシ（*Platypus quercivorus*）（以下「カシナガ」という）の北海道への侵入経路については、森林総研が行った遺伝子分析の結果から、東日本にある遺伝的グループ3個の中の新潟、長野、山形、東北の日本海側を北上し津軽半島に被害をもたらしたグループと一致する事がわかった。松前町の白神岬と青森県の竜飛崎の距離は20km、カシナガは体長5mm程度で飛行能力が高く27km飛んだという実験結果もあり、風に乗れば津軽海峡を渡る事は充分可能である。もともと南方系昆虫のカシナガであるが、温暖化の影響で年々北上を続けている。林業関係者の間では、すでにナラ枯れによる枯死木の適切な処理方法の周知や、薬剤による防除が進められている。被害を食い止めるには初期対応が重要で、疑わしい木を見つけたら各振興局への連絡が有効となる。



ナラ枯れがもたらす問題とは

山林で起きているナラ枯れと街中でのナラ枯れでは、個人的には受け止め方が違ってくる。函館市内の公園での発生でなければ、さほど気には留めなかったと思う。ミズナラやコナラの利用で思い浮かぶのは、木炭用の材料、シイタケ栽培用のほだ木、高級家具材、ウイスキー樽等としての利用であ

る。道南の駒ヶ岳の麓では木炭の生産が盛んに行われ、質の良い木炭で有名だ。利用者の一人としては無くなるのは困るし、無くなる事は想像がつかない。ナラ枯れによる危険木の出現でのインフラや人命への影響、景観不良による観光地への影響に思いが行く。日本の紅葉は、重要な観光資源である。またミズナラやコナラにはヒグマなどの餌となるドングリが実る。ナラ枯れが広がれば、ヒグマの生息域で餌不足となり、餌を求めて人里に下りてくるヒグマがさらに増える事が懸念される。函館市の郊外に住んでいて今年になって気になった事がある。毎年、大量に実を付けるコクワやヤマブドウが何十年か振り、いや、ほぼ初めてと言っていいほど実成りが激減した。毎年、雪が降る頃から人里に現れるヤマガラ、シジュウカラ、コガラ、ゴジュウカラ、カケスなどの野鳥が9月頃から見かけるようになった。温暖化による山林や中山間の生態系、人里への影響を危惧している。

近年、函館市内に定着した害虫

○アメリカシロヒトリ (*Hyphantria cunea*)



数年前から市内の街路樹プラタナスに大量に発生を続けている。近隣住民からの苦情対策として発生時期に合わせた早期剪定などを行って対処している。最近気になるのが、街路樹や公園のサクラへの被害の拡大である。また発生期間が、以前は夏頃までだったのが秋までと長期化している。全国的に発生している害虫で、発生には地域性や周期性があるように感じる。主な対策としては、薬剤散布、枝ごと捕殺で発生初期段階の処置が有効だ。

○トチノキヒメヨコバイ (学名 不明)



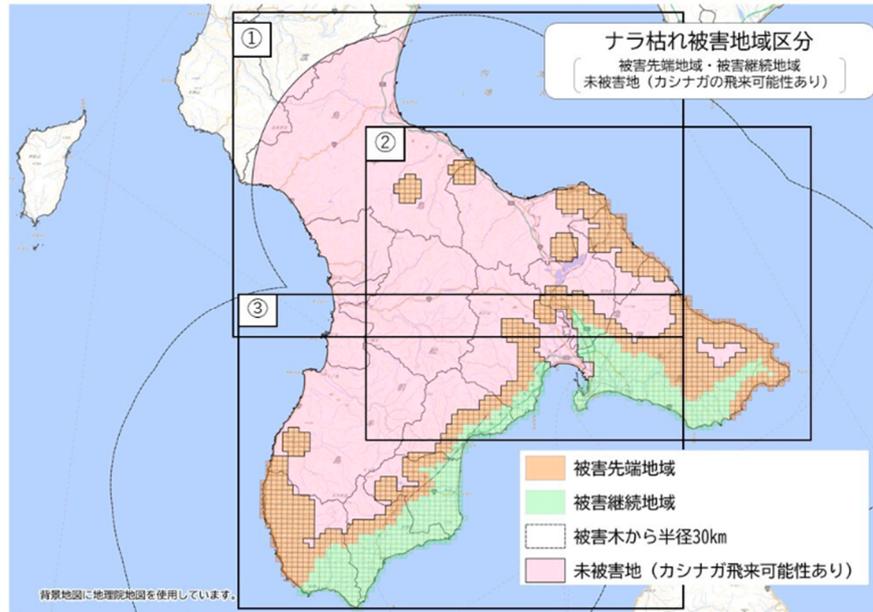
○プラタナスグンバイ (*Corythucha ciliata*)



※定着した害虫の被害により、街中で見る事ができた美しい紅葉は、見る事ができない。

おわりに

緑の環境で「被害」や「害虫」「益虫」の定義は人間側の評価である。質(健全性)、量のバランスが崩れた時に評価は変わる。今までになかった事が、身の回りで起きている。



ナラ枯れ被害木調査結果 (令和7年12月22日時点)

単位：本

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
函館市	0	0	0	0	0	799
北斗市	0	0	0	0	0	50
松前町	0	0	0	8	159	370
福島町	0	0	0	7	37	409
知内町	0	0	0	0	17	160
木古内町	0	0	0	0	0	135
七飯町	0	0	0	0	0	17
鹿部町	0	0	0	0	0	9
森町	0	0	0	0	0	6
八雲町	0	0	0	0	0	1
上ノ国町	0	0	0	0	0	3
総計	0	0	0	15	213	1,959

※被害本数は、現地調査で確認した被害木に加え、R7は、急峻地など調査者の安全が確保できない箇所や被害継続地域については、上空調査の結果をもとに1箇所1本として推計し、合算。

北海道庁 HP 水産林務部林務局森林整備課「北海道におけるナラ枯れ被害について」より引用

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/new23/206717.html>